

生物—レッドデータブック—8 植物I (維管束植物)。環境庁自然保護局野生生物課。環境庁, 1997. 植物版レッドリスト。環境庁自然保護局野生生物課。
松阪市史, 1977. 第1巻 資料編 自然。松阪市。
三重自然誌の会, 1995. 自然のレッドデータブック・三重。

中 優・日置佳之・田中隆・水谷義昭・百瀬浩, 1998. 水草の生育環境としての池の空間構造。環境システム研究 26: 245-252。
大滝末男・石戸忠, 1980. 日本水生植物図鑑。北隆館。
レッドデータブック近畿, 1995. 近畿地方の保護上重要な植物。レッドデータブック近畿研究会。

◎府県版レッドデータブックの紹介

1. 『宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生生物』(宮崎県生活環境部企画・宮崎県環境科学協会発行, 2000年3月, 384p, 4,762円)
2. 『佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物—レッドデータさが—』(佐賀県環境政策局環境企画課発行, 2000年12月, 472p)
3. 『福岡県の希少野生生物—福岡県レッドデータブック2001—』(福岡県総務部県民情報広報課発行, 2001年3月, 447p, 頒価1,800円)
4. 『レッドデータブックおおいた〜大分県の絶滅のおそれのある野生生物〜』(大分県生活環境部生活環境課発行, 2001年3月, 507p)
5. 『群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 植物編』(群馬県環境生活部自然環境課編集・発行, 2001年1月, 153p)

府県版レッドデータブック(RDB)の出版が相次いでいる。調査の不十分さは痛感されながら、地域の自然の危機的状況を少しでも早く明らかにしなければという危機感が感じられる。昨年から今年にかけて出版された九州4県関東1県のRDBを紹介する。

最近の府県版RDBのカテゴリー区分は、ほぼ環境庁版に準拠し、それに県によっては独自の基準を加えている。例えば宮崎県版では県内におけ

る重要度を3ランクで評価している。群馬県版では県内を10地域に分け、それぞれの地域における現状(「絶滅」, 「情報不足」等)を整理しているのも面白い試みだ。

記載されている事項は、ほぼ標準化される傾向にあるが、県ごとに特色もある。「生物多様性研究の意義」にまで踏み込んだのは福岡県版ならではのであろうし、「掲載種の分析データ一覧」として絶滅危惧種の危険性の要因や生育環境の特色などが見やすく整理されているのは宮崎県版の特色である。

本質的な問題ではないが、製本予算は県によってかなり異なると推察する。ほぼ全ページカラー印刷の宮崎県版から、環境に配慮して質素なつくりの佐賀県版まで多彩である。大事なことは見栄えの立派なRDBを作ることではない。今後、このRDBが行政の現場でいかに活用されるか、そしてこれを機に地域の自然に関する調査がいつそう進み、より正確な情報が集まることである。そこにRDBを編纂することの本当の意味がある。行政としては、そのことに支援を惜しんではならないだろう。

23頁と32頁に、それぞれのRDBに掲載された水草をリストアップするのでご覧いただきたい。各地域の水草の状況を知る上で、余計なコメントは不要だろう。

(角野康郎)